第４学年
学級活動

「第 10 回学級会　ゲストティーチャーの方々へのお礼の会をしよう」子どもたちが進んで話し合い，合意形成ができる力を育む授業

二本松市立岳下小学校　福本　拓人

１　単元によせる授業者の思い

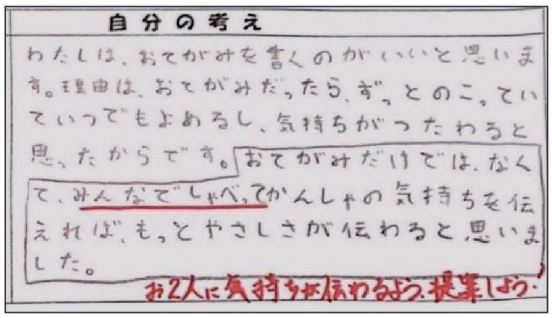
第９回学級会「学級のマスコットキャラクターを作ろう」の，話合いをまとめる場面のことである。比べ合う場面で多くの意見が出た後，Ｓ男は「やっぱり学級目標の『笑顔・やさしい・協力』の全部が入っているキャラクターにしたい」と，話した。それを聞いたＡ男は「（３つのキャラクターのうち）『コウモリ』は，仲間と餌を分けて生活していて『やさしい』し『協力』も入っているしイラストも『笑顔』のキャラクターだ」と話し，子どもたちから拍手が自然と出て合意形成することができた。

授業者は，常に学級目標を意識して考えているＳ男や，友だちの考えを生かして全体で合意形成しようと提案したＡ男の姿が，さらに学級全体に広がっていくことで「自分もよく，みんなもよい」方法を考え，互いの考えを認め合い，高め合う集団になっていくと考えた。

２　授業の実際

視点Ⅰ　議題を自分事として捉え，思いを高めるための機会の確保

総合的な学習の時間と学級活動を関連付けて議題を設定し，ゲストティーチャーに対するお礼の思いを高め，子どもたちが自分の考えをもち，進んで話し合うことができるようにした。



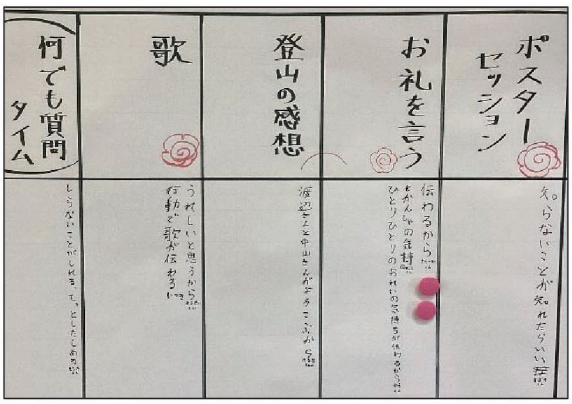
＜ 写真１　事前に考えを書いた話合いカード ＞

二度，ゲストティーチャーを迎え，一緒に安達太良山登山を行った学習を写真で振り返り，どのようなお礼の気持ちを伝えたいのかを考える機会を確保したことで，一人一人が話合いの柱についての意見をもって話合いに臨むことができた。

視点Ⅱ　自分の考えの立場や思いの可視化

国語科の学習を生かし「お礼の気持ちが相手に伝わるか」という観点で表に整理し，意見の理由を比べることができるようにした。

その後，計画委員は意見を整理し（写真２）話合いの進め方をイメージしてから話合いに臨んだ。合わせることができそうな意見を近くに書いたことで，子どもたちが比較して考える姿が見られた。



＜ 写真２　意見を整理し，理由を書き込んだ表（模造紙）＞

さらに，意見の理由を書き込んだことで提案理由に戻り，合意形成する子どもたちの姿が見られた。

K　男	時間がギリギリだからお礼の言葉と書いた人に悪いけど消すしかないと思います。
司　会	お礼と登山の感想と書いた人どうですか。
N　男	でも，お礼を言うのは，気持ちが伝わるからいいと思います。
S　男	提案理由にお礼の気持ちを伝えたいと書いてあるから，やっぱりお礼は必要です。
K　男	それなら，お礼と登山の感想を合わせて…代表の人が話せばいいと思います。

教室に意見の表を掲示しておいたことで，子どもたちは意見のよさや違いを比較して聞くことに専念することが容易になった。だからこそ「お礼と登山の感想を合わせ，代表が話す」という提案がされ，子どもたちが納得して合意形成することができた。

視点Ⅲ　子どもと子どもの思いをつなぎ，合意形成を図るための教師のかかわり方

「どうしてその活動がお礼になるのか」について問い返すことで，子どもたち自身が「お礼」の活動の意味を明確にすることができるようにした。

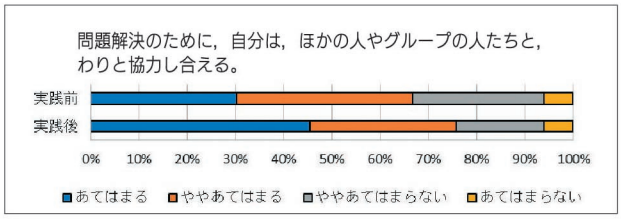
下記は「お礼の会でポスターの発表をしたい」と発言したＫ男の思いをさらに引き出し，学級全体に広げるために授業者が問い返した場面である。

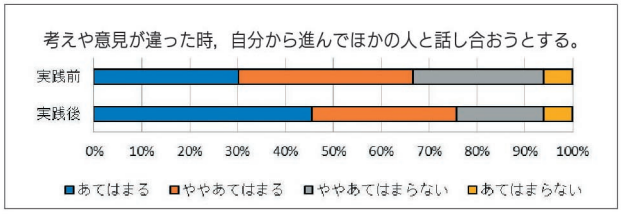
授業者	ポスターの発表をすることがお礼になるというのは，どういうことなのかな。
Ｋ　男	渡辺さんと中山さん２人のお話を『ここまで覚えていました』というしるしになるから，２人も喜んでくれると思います。
司　会	皆さんは，今のＫ男さんの考えについてどう思いますか？
Ｃ	それは，いいと思います！

＜ 写真３　Ｋ男「２人の話を覚えていた印になる」＞

始め，Ｋ男は「みんなも知らないことが知れると思うからポスターを発表したい」と，理由を話していたが，教師が問い返したことで「ゲストティーチャーにお礼を伝えたい」という提案理由に戻り，相手のために何ができるのか考え，思いを伝える姿が見られた。Ｋ男の思いを学級全体に広げたことで，子どもたちが納得して合意形成することができた。さらに，終末の教師の話で「Ｋ男さんのように，自分たちの成長を見てもらうというお礼の伝え方もあるね」と，相手意識をもって発言したＫ男の考え方のよさを価値付けることができた。

３　子どもの変容





〈考察〉

互いの考えのよさを認め，生かすことができるよう授業を進めてきたことで「協力しよう」と問題解決に前向きになってきたことが分かった。また，それぞれの思いを伝え合う話合いを経てお礼の会を実現することできたことで「考えや意見が違った時には，話し合って解決しよう」とする気持ちが高まったことを読み取ることができた。

４　研究のまとめ（○成果●課題）

【視点Ⅰ】

●　「お礼として何を伝えたいのか」をはっきりもたせることで，温かい思いが表れる話合いを目指したかった。必要に応じて「お礼としてどんな気持ちを伝えたいのかな」と問い返し，一人一人の思いの違いを伝え合うことも必要だと感じた。

【視点Ⅱ】

○　事前に意見の表を掲示しておいたことで，子どもたちは理由を聞くことに専念し，比較して考えることができた。

【視点Ⅲ】

○「どうしてポスターの発表がお礼になるのかな」「どちらの考えも生かす方法はないかな」という教師の働きかけにより，子どもたちが合意形成しようと歩み寄る姿が見られた。

●　教師が子どもの姿を見取り，全体に広げるために，「意見を比較して考える姿」「友だちに寄り添い，提案する姿」等，子どもたちが合意形成しようとする姿について，より具体的なイメージをもつ必要があった。

実際の指導案はこちらへ▶